

浄泉寺護寺会報

URL <http://e-jousenji.com/>

発行者 浄泉寺護寺会会長 庄 司 寿 夫

同朋の会と連携して

護寺会会長 庄 司 寿 夫



6月28日、平成27年度護寺会総会で会長に選出されました庄司寿夫です。浄泉寺護寺会は今年で35

年目を迎えております。初代会長は故岸力様（岸順幸様のお父上）、2代目は故北村明様、3代目は岸順幸様、4代目は赤間榮夫様、私が5代目に選出されました。

優秀な諸先輩方の築かれた業績に一步でも近づける様に微力を尽くしていきたいと思ひます。今後共皆様のご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

さて、同朋の会が発足して今年で3年目を迎えており、5月17日

に春のつどいが実施され、帰敬式を受けた方が9名おります。これまで法名をいただいた方は合計31名です。ご住職が常々言われている「自分のもう一人」を求めて日々の生活を送りたいです。そして、「人に思いやり」「人を差別しない」「人を浄泉寺から発信できれば」と思っております。

5月20日に東日本大震災・原発事故を忘れてはならないと云う意図から「心に刻む集い」（今年で3年目）が仙台国際センターで実施されました。同朋の会会員25名、成願寺門徒8名、教樂寺（大和町）門徒11名、合計44名の門徒が参加しました。参加者一同は震災の恐ろしさ、原発事故の凄まじさを再認識して来ました。これを機会に他のお寺さんとの交流が深まることをご住職も願っております。

6月20日には同朋の会会員25名

が、大分県中津市在住の瀧様から贈られました白の彼岸花の球根400個を植えました。「秋には白い彼岸花が咲く」ことを今から楽しみます。これからもご住職のご指導ご助言のもとに、「来やすいお寺」「開かれたお寺」「誰もが参加し、誰もが意見を述べられるお寺」を目指したいと思ひます。重ねて、皆様のご支援をお願いいたします。

終りに、総会後の懇親会で話題になった「他力」についてひとこと触れたいと思ひます。

「他力」とは、如来の招喚の願いである。自分一人の力ではなく、周りの人に支えられて生きていく」とご住職の教えです。そして、五木寛之著「他力」には「法然、親鸞、蓮如などの思想の核心をなす〈他力〉こそ：私達の乾いた心を活性化する〈魂のエネルギー〉です」と書かれております。

この「他力」を大切にしながら総代会・護寺会・同朋の会が連携して更なる発展を望んでおります。

シリーズ 宗祖親鸞聖人に学ぶ

浄泉寺住職 釋 證 信

宗祖親鸞聖人の生きていた平安末期の混沌とした頃の平均寿命は50歳にも満たなかっただろう、その親鸞聖人は60歳過ぎて自問したのだろうか…、京の都で生まれ、幼くして両親に死別、9歳で出家、20年間比叡山（天台宗）にて修行の後、29歳で生涯の師法然上人に出

には師である法然上人はすでに命終している。念佛弾圧は未だ根強く残っている場に「それでも伝えなければならぬ、残さなければならぬ」ことを毎日必死の思いでいたに違いない。

遇い「ただ念佛して弥陀にたすけまいらすべし」と自分の名前さえ書けない庶民と共に生きようとした法然門下に、念佛停止の弾圧の嵐が吹く。しかし、念佛の声止まらずとみるや、権力者は念佛者に罪科を加し流罪。時に親鸞聖人35歳。以来、北陸、関東と家族を引き連れ、田舎の人々と共に逆縁を縁として生きる。

波乱に満ちた人生の終焉を余生として、ゆつくりと穏やかになど過ごせない親鸞聖人は、常に名もなき庶民の目で精力的に生き、自分に厳しく、権力者へのメッセージは大作「教行信証」を通して「念佛成佛これ真宗」と、凛とした態度で臨んだ。

「まはさてあらん（そうだったのか）自分は今、何をせねばならぬのか」と…、関東での20年の暮らしに決別して一人京都に戻る。そこ

宗祖親鸞聖人の生涯は私達のいのちの中に脈々と鮮やかに生きている。これまで「宗祖親鸞聖人の教えに学ぶ」のシ

憶念 …… いのち悼み いのち訪う

あのとき失われた「いのち」がある

あのときから4年経った今でも脅かされている「いのち」がある

いま 震災から『いのち』について考える

真宗大谷派仙台教区主催 3.11東日本大震災“心に刻む集い”

5月20日、県内外から参集された真宗門徒で、キャパシティ1000席の国際センターが満席となった。

私達浄泉寺は、成願寺そして吉岡教楽寺のご門徒さんと貸切バスをチャーターし44名参加。成願寺とはいつも一緒だが教楽寺さんとは初めてである。3年目になるこのつどいは回を重ねるごとに仲間が広がり、より深まる。共に「よりよい」「はげまし」生きることの意味を確かめ合った。

浄泉寺同朋の会が結成されて2年、例会が毎月20日とあって、移動研修の形となったことで24名の参加となったが、往復のバスの中での交流も和やかで各寺の行事への協力など、これからお互いに情報の交換を約束、「協調しよう」との話し合いが出来ていた。ともすれば他人事であり、忘れたいこともあろうが、悲しみと向き合うことは、ほとけの教えがより深く和みの中に沁み込むことではないだろうか。そして気付かされることは「煩惱障眼雖不見・大悲無倦常照我」のはたらきなのだと…

南無阿弥陀仏

シリーズを担当してきた責任役員の赤間榮夫氏は、最近体調不良になり、続けることができなくなりました。これまでの氏のご労苦に心からなる感謝を申し上げますと共に、浄泉寺の発展に中心的存在と

して、ハードな面ばかりではなく精神的な面、そして護寺会会報や同朋の会、聞法の会など、寺のあるべき姿の実現に力を注がれました。

心より重ねて感謝申し上げます。

浄泉寺護寺会総会報告

平成27年度浄泉寺護寺会総会が去る6月28日(日)午後1時から、浄泉寺本堂において開催されました。

出席者全員による正信偈唱和、「俱会一處」前での焼香の後、総会の開会となりました。

蘇武副会長司会のもと、赤間会長の挨拶(佐々木副会長代読)に続き、坪田洋氏が議長に選出され、事業報告等の議案8件を審議、全て満場一致で可決承認されました。

▼平成27年度総会議案

平成26年度事業報告

平成26年度収支決算報告

特別会計 維持改善基金決算報告

特別会計 上山研修基金決算報告

監査報告 監事平塚正寛氏

平成27年度事業計画の承認

平成27年度収支予算の承認

護寺会会則の変更

これまで理事の中に含まれていた庶務、会計を独立させ、地区担当の理事を地区役員とし、広報委員若干名を加え、選出方法について

は、会長、副会長、監事は総会決議により決定し、庶務・会計・広報委員は会長が指名することとなりました。

改選後の新役員

会長 庄司 寿夫(東川原町)

副会長 佐々木芳雄(東川原町)

副会長 平塚 正寛(横町)

庶務 蘇武 則行(新橋)

会計 岡本 修一(通丁南)

地区役員 赤間 榮夫(通丁)

地区役員 岸 順幸(二ノ構)

地区役員 米倉 孜(川原町)

地区役員 渋谷 至一(川原町)

地区役員 渡部 運作(寿丁)

地区役員 千葉 仁一(共栄)

地区役員 中山 功一(下町)

地区役員 坂本 勇(仲小路)

地区役員 浜田 信一(横町)

地区役員 石崎 純一(川原小路)

地区役員 菊池 正典(二ノ構)

地区役員 菱沼 泰美(通丁)

監事 内田 政明(通丁)

監事 佐藤 厚(上野目)

広報委員 大坂 弘(二ノ構)

総会終了後懇親会開催。

彼岸花の植え込み

一昨年、タカハシ電化さんが新聞の切り抜きを持ってこられた。

それには「白い彼岸花を欲しい方は連絡が欲しい」とあり、東北で震災に打ちひしがれた被災者を想い「少しでも元気を出して欲しい」との願いが込められた、大分県の瀧さんという方からの記事でした。

「それでは」とご住職が電話をされたところ「今年はどう無理なので来年なら差し上げられそうです」との答えをいただいたのでした。それが、忘れかけていた今年の5月になって連絡が入り400個ものの球根が送られたのです。

毎朝の仏参詣の会の中でその話が出たところ「同朋の会でやっぺす」となったので、例会の日に植え込みをすることに決まりました。

当日は、20数名もの方に集まっていたとき、更には、通丁の内田さんから赤い彼岸花を80個程戴き、それも一緒に植えられました。

4日前に急に決まったことが直

に実行できる同朋の会の素晴らしい仲間達。ある人は会員に連絡を取り人手を揃え、またある人は植え込み場所の設定と準備、2日前には植え込み場所に土が運ばれておりました。震度6強の地震に遭い、暗くなりがちな私たちの心に一筋の光が射した様に思えます。

この件は、我々真宗門徒にとつて「浄土真宗の精神」「親鸞聖人の教え」に結びつくところがあるように思えてなりません。

瀧さん有難うございます。作業をされた皆さんご苦労様でした。

お彼岸が楽しみですね…



浄泉寺春のつどいに参加して（寄稿） 蘇 武 啓 子

5月17日、今年で2回目となる春の法要が「浄泉寺春のつどい」として開催されました。

これは宗祖親鸞聖人の誕生（4月1日）とお釈迦様の誕生（4月8日）を祝う誕生会だそうです。

真宗宗歌に始まりご住職の表白が続きました。その表白の中の、「本願を信じただ念佛して弥陀にたすけまいらすべし」の教えを受け継ぎ、生涯を賭して南無阿弥陀仏の道を伝えるとの誓いのことばに身の引き締まる思いがしました。

その後帰敬式。それは親鸞聖人が明らかにされた「教え」に出会い、自らの人生を問いたずね、門徒として新たな人生を歩みだすことだそうです。真宗のことを知らない私が式を受け、かつ法名をいただいて良いものか躊躇しましたが、一歩ずつ「教え」を聞いて行くうと思ひ、主人と共に式を受ける決心をしました。

帰敬式は荘厳な中にも心温まる



感動的なものでした。この感動を深く胸に刻みいつまでも忘れないことを願いました。

その後、ご住職の法話、恩徳讃の斉唱と続き「浄泉寺春のつどい」は無事終了いたしました。このつどいが浄泉寺の大切な行事としていつまでも続いていくことを願って止みません。

最後に春のつどいをお世話してくださった方々、帰敬式を見守ってくださった方々に感謝申し上げます。

お盆の行事について

◎8月7日、午前5時から一斉清掃（墓地、境内地）、各自の墓地と本堂境内周辺の清掃を行います。6時から朝の勤行（おつとめ）、本堂で茶会、7時に解散となります。

◎8月13日から16日の夜6時30分～8時、万灯籠会が行われます。

参道両側の灯籠に、赤あかと灯がとまり、幻想的な雰囲気の中で墓参りは、夜の風物詩ともなりました。是非、ご家族揃ってお出かけください。

なお、灯籠記名のお申し込みは地区役員か寺までご連絡ください。会費は一基千円となります。

お墓参りをお願い！

◎造花はあげないでください。

◎お供物はお持ち帰りください。

◎茶わん、カン類等、燃えないゴミはお持ち帰りください。

◎ゴミ置き場には、紙、樹木、生花以外は捨てないでください。

あ と が き

赤間榮夫氏がこの度、健康上の理由で浄泉寺護寺会会長を退任されました。平成24年の役員改選時には無理にお願いして会長職をお受けしていただきました▼氏は浄泉寺責任役員として長きにわたり活躍され、浄泉寺の発展に尽くされたその功績は誠に大なるものがあります▼中でも本堂建設という大事業にあつては、各種委員会・小委員会を設置し意見を吸い上げ、そして取りまとめ、数か所の寺を視察するなどして、資金作りを含め建設過程すべてを取り仕切るリード役として力量を発揮されました▼また、上山研修をはじめ別院報恩講に併せた研修旅行を定期的に開催し、檀徒のコミュニケーション作りにも熱心に取り組まれました▼氏の行動一つひとつを胸に刻み、その考えを受け継ぎ行動に移して行くことが肝要であると思う。実行が伴ってはじめて結果が残るのだから…（編集委員）